

ゴミ箱のない公園

—公共の場を美しく使おう—

- 1 学 年 第6学年〔中期〕
 2 主題名 公共の場を大切に〔4－(1)〕
 3 ねらい 気持のよい公園の使い方を考えることを通して、社会の一員としての自覚をもち、公德を守り、進んでよりよい社会を作ろうとする意欲を育てる。
 4 資料名 「ゴミ箱のない公園」
 5 展 開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 地域の清掃をした時の感想を出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 缶やペットボトルが多い。 ポイ捨てのゴミが多かった。 なぜゴミ箱に捨てないのかと思う。 	○ 地域清掃後の感想と作者の気持ちとを比較させる。
展 開	2 資料「ゴミ箱のない公園」を読んで話し合う。 ○ 公園は「ぼく」たちにとって、どんな場所なのでしょう。 ○ 「ぼく」はゴミがあふれ出しているゴミ箱を見て、どう思ったのでしょうか。 ◎ 「公園にゴミ箱は必要なのだろうか。」という「ぼく」の考えについてどう思いますか。 ○ 「ぼく」はどんなメッセージを感じ取ったのでしょうか。 3 自分たちの生活を振り返って話し合う。 ○ これまで公共の場や物をどのように利用していましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 心が安まり、家族と触れ合える。 友達と遊んだり楽しんだりする。 なぜ市民の公園にゴミを捨てるの。 自分勝手な人は使ってほしくない。 自分の家で捨てればいいのか。 <p>必要だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ますますポイ捨てが増える。 公園には遠くから来る人もいる。 <p>必要でないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭ゴミを入れる人がいるから。 自分のゴミは持ち帰るべきだから。 ゴミは自分で持ち帰ろう。 みんなの手で美しくしてほしい。 マナーを守り利用してほしい。 <ul style="list-style-type: none"> 決まった使い方をする。 迷惑が掛からないよう静かにする。 後の人のことを考え、片付ける。 	○ 公共の場として公園の役割をおさえる。 ○ 導入での感想と関連させ、作者の腹立たしさに共感させる。 ○ ワークシートに、理由を書き、話合うことで、公共の場をきれいにするための価値に気付かせる。 ○ ゴミ以外にも、公共の場の使い方を考えさせる。 ○ 公衆マナーとして、心がけてきたことを具体的な場面で振り返らせる。
終 末	4 マナーを守った、きれいな場所や物の写真（映像）を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ゴミのない広場は美しい。 きれいなトイレは気持ちいい。 本が整頓されていて使いやすい。 	○ 美しい場所の気持ちよさや便利さを実感させる。

6 授業の概要

(1) 主題について

公園や公共の場などでの利用の仕方について、自分さえよければよいといった自分本位な考えから汚したり、騒いだり、壊したりといった行為を行う者もいる。そのため、社会生活を送る上で、人間として最低限のマナーやルールを守ることの意義を理解させ、主体的に判断し、適切に行動できる人間を育成していく必要がある。

また、前期段階から繰り返し指導されてきた「してはならないことをしない」ことをさらに発展的にとらえ、法やきまり、マナーの意義を身近な問題から理解させ、遵法の本質をもたせたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 体験活動との関連

清掃等のボランティア活動は特別活動や総合的な学習の時間で実施している学校が多いため、本資料は児童にとって身近な問題としてとらえやすいと考えられる。多くのゴミを目の前にして腹立たしさを感じる主人公に共感することによって、活発な意見交換も期待できる。

また、公共施設や交通機関を利用しての社会見学等は、本資料における道徳的価値の実践の場として、指導後に実施して関連をもたせることができる。

イ 中心発問に対する2つの考え

中心発問では、主人公が「公園にゴミ箱が必要なのか。」「必要でないのか。」と迷う場面で、主人公に同化させて児童自身に考えを問うようにしたい。そこでは、自分の考えを理由付けしながら明確にさせて、互いの考えを聞くことで、さらに何が問題なのか、より高い価値は何なのかをじっくり考えさせたい。

ウ 場面ごとの資料読み

本資料は、場面ごとに区切って把握をさせていくと理解しやすい。その際には、状況や主人公の立場とその時の気持ちを明確にしておきたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

実際に自分たちが行った清掃活動等の様子が分かる写真やゴミの状況等を示す提示物を見せることで、資料への関心をもたせたい。

イ 板書の工夫

板書では、主人公が迷う場面で対比できるように、場面ごと左右にそれぞれの状況や主人公の思いを提示しておき、その中で自分の考えがどこに位置しているのかをネームカード等を利用して表示させる等の工夫も考えられる。

ウ ワークシートの工夫

中心発問に対する自分の考えを理由付けしながらワークシートに記入させることで、自分の考えを整理させることができる。また、意見交流によって考えに変容がみられた場合、新たな考えを記入させることで、価値の高まりを自覚させたい。

エ 終末の工夫

終末では、身近な所から見直すために、意図的に学校内外のきれいな様子を写真や映像で見せることで、気持ちのよさや便利さを実感させ、実践意欲を高めたい。